

「時間ぎりぎり事故の元、余裕を持って安全運転 ヨシ！」 H27年度最優秀交通安全標語

交通統計(公益財団法人交通事故総合分析センター発行)によると、ほぼ毎年、交通事故の4割近くは一般道路(単路のうちで、トンネル、端、カーブを除いたもの)で発生しています。そこで、一般単路における周囲に応じた注意や死角に対する注意のポイントについてまとめてみました。

1. 一般単路

■周囲に応じた注意

●前車への注意

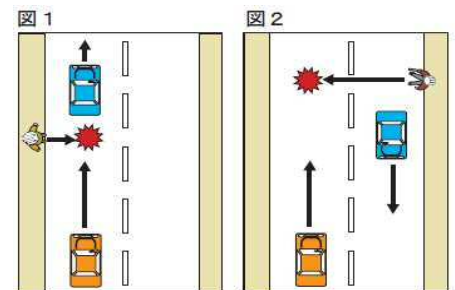
一般単路で最も多い事故は追突です。前車との車間距離をとらずに漫然と追隨していると、前車が急な停止をした時に追突する危険性が高まります。道路交通法第26条において「直前の車両等が急に停止したときにおいても、これに追突するのを避けることができるため、必要な距離を保たなければならない」と定められています。十分な車間距離を保持するとともに、前車のウインカーやブレーキランプなどにもよく注意して、減速や停止を早めに把握するようにしましょう。



●横断歩行者への注意

横断歩道のない場所でも、横断してくる歩行者は少なくありません。歩道や路側帯に歩行者が立っている場合などは、その動きをよく目を配る必要があります。特に高齢歩行者は、車の速度や距離を見誤って横断してくることがありますから、特段の注意が必要です。

又、走行車両の通過直後に横断してくる歩行者もいます。この場合、自転車線側からの横断(図1)と対向車線側からの横断(図2)がありますが、対向車線側からの横断による事故が多いといわれていますから、対向車線側の歩行者にもよく注意する必要があります。

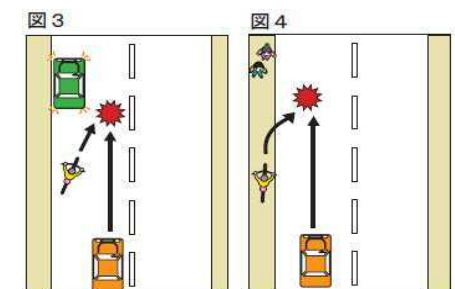


●自転車への注意

車道の左端を走行する自転車は、駐車車両などの障害物があると後方を確認せずに車道の中央寄りに進路を変更することがあります。(図3)

歩道を走行している自転車の場合も、歩行者などを避けるために車道に出てくることがあります。(図4)

自転車が走行している時は、その先の状況にもよく目を配り、自転車の動きを予測した運転を心掛けましょう。



■単路に潜む死角に注意

●大型車両が作る死角

トラックやバスなどの大型車の後方を走行すると、前方の道路状況が見えにくくなります。そのため交差点や横断歩道などの発見が遅れたり、信号が確認できずに赤信号で交差点に進入する危険があります。大型車の後方を走行する時は、前方の状況にきちんと対応できるよう車間距離を十分とるとともに、走行ポジションを左右にずらすなどして、前方の視界の確保に努めましょう。

なお、前方の状況が把握しにくいときは、路面標示や標識(図5)などにも目を配るとよいでしょう。そうすることで横断歩道や信号機があることを早めに把握することが出来ます。

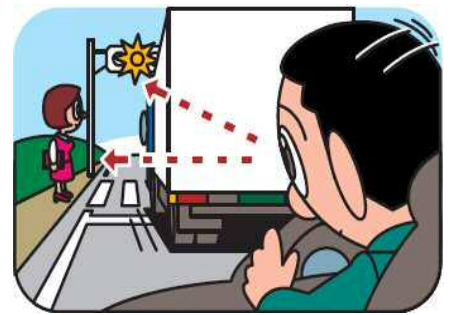


図5



●駐車車両が作る死角

路上に駐車車両があると、その向こう側が死角となり、道路を横断しようとする歩行者や自転車の発見が遅れやすくなりますから、駐車車両付近の状況によく注意する必要があります。特に道路の両側に駐車車両がある場合や駐車車両が連続している場合は、死角となる範囲が広くなり危険度が増しますから、そのような場所では速度を十分に落とすとともに、駐車車両の窓越や車体の下などにも目を配って、歩行者や自転車の早期発見に努めましょう。



●対向車線の渋滞車両が作る死角

対向車線が渋滞しているときは、渋滞車両の間から歩行者や自転車が道路を横断してくることがあります。特に渋滞車両が完全に停止しているときは、駐車車両が連続しているのと同じ状態になりますから、渋滞車両の間によく注意して走行しましょう。

2. 今月のスローガン(企業開発センター交通問題研究室)

「暗かった」「見えなかった」は許されない
習慣づけよう早めのライト

